

青苧について知り・感じ、その魅力を発信しよう

～青苧の歴史や活用法を学び、青苧のこれからを考える～



<はじめに>

本校では、6学年の子ども達が総合的な学習の時間に、青苧に関する探究的な学習に取り組んでいる。青苧復活夢見隊（代表：村上弘子氏）の方々からご指導・ご支援を頂きながら、調べ学習や見学・体験活動に取り組むことを通して、ふるさとを愛する気持ちを高めている。

1 青苧の歴史について知る

大江町歴史民俗資料館を訪問し、青苧の歴史やその活用等について見学した。青苧復活夢見隊の村上弘子さんにご指導頂き、館内の展示物や資料を見ながら多くのことを学んだ。また、青苧復活夢見隊ができたいきさつや、現在の活動について知ることを通して、自分達のこれからの活動に意欲を持つことができた。



【民俗資料館の見学】

2 葉摘み・染液作り・青苧染め体験

青苧復活夢見隊の方々にご指導頂きながら、青苧の葉摘みから青苧染めまでの作業に取り組んだ。青苧の葉を摘み取り、緑色の葉を煮詰めると染液が黄色になることに驚くとともに、その染液に布を浸すと鮮やかな黄色に染まった時には感動の声が上がった。そして、自分達が染めた布でコサージュを作り、卒業式の胸花となることに大きな喜びを感じていた。



【青苧の葉摘み】



【染液作り】



【青苧染め】

3 苧引き

青苧の茎から表皮を採り、専用の台と工具を使って繊維を取り出す苧引き（おひき）作業に挑戦した。初めは上手いかず皆悪戦苦闘していたが、青苧復活夢見隊の方々のサポートにより、次第にコツをつかみ何とか繊維を取り出すことができた。

取り出した繊維は乾燥させて保存し、アンギン織りや紙漉きの材料として活用することができる。

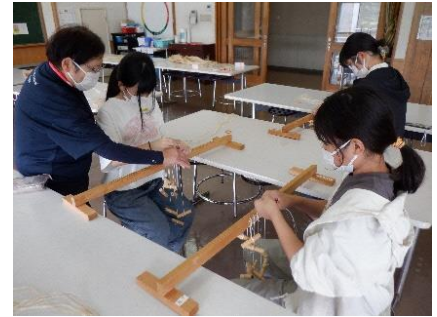


【苧引き体験】

4 アンギン織り

アンギンとは、一本の緯糸（よこいと）を二本の経糸（たていと）で常に縄状にからませながら編みすすめて布状にしたのもで、日本最古の編み物でも織物でもない特殊な布である。

今回は「コースター」づくりに挑戦したが、芋引き作業で取り出した繊維を、専用の織機で編んでいく作業は難しく集中力を要する作業であった。青苧復活夢見隊の方々にご指導頂きながら少しずつ編みすすめ、作品を完成させることができた。



【アンギン織り体験】



【紙漉き体験】

5 卒業証書の紙漉き

6学年の親子行事では、紙漉きをするのが恒例になっている。紙漉き用のネリの中には青苧の繊維が入っており、一連の青苧の学習とも関連付けた活動となっている。

卒業式で自分達が頂く卒業証書の用紙となることもあり、子ども達は月山和紙の匠である三浦一之氏のご指導を受けながら慎重に紙漉きに取り組んだ。

6 キャリアトーク

本校では、地域の方より仕事等に関する思いを話していただくキャリアトークを実施している。6年生は、青苧復活夢見隊の村上弘子氏から、青苧についてのお話を伺った。青苧にかける思いや青苧復活への夢に触れ、自分達のこれまでの活動の意義を再認識し、今後の活動の意欲を高めることができた。



【キャリアトークの様子】

7 青苧について発信

本校は今年度創立 150 周年を迎え、11月9日（土）に記念式典を開催した。式典後の記念イベントでは、3～6年生が総合的な学習の時間に学んだことを保護者や



【150周年記念式典での発表の様子】

式典参加者、1・2年生に対してポスターセッション形式で発表した。6年生は青苧についてこれまで学んだ事をミライシードのオクリンクでまとめ発表した。



<おわりに>

かつて地域で盛んに栽培されていた青苧を素材として、地域の方々の支援を頂きながら探究的な学習を進めてきたが、子ども達が様々な活動に意欲的に取り組み学びを深めることができた。子ども達にふるさと大江町を愛する心が育っている。